

山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
2	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

自己評価項目番号26 馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39 事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

事業所番号	670101500
法人名	医療法人社団 楽聖会
事業所名	グループホームあかねヶ丘
訪問調査日	平成 21 年 3 月 16 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 16 日
評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年4月16日

【評価実施概要】

事業所番号	670101500		
法人名	医療法人社団 楽聖会		
事業所名	グループホーム あかねヶ丘		
所在地 (電話番号)	山形県山形市あかねヶ丘3丁目15番7号 (電 話) 023 - 647 - 6630		
評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市檀野前13-2		
訪問調査日	平成21年3月16日	評価確定日	平成21年4月16日

【情報提供票より】(平成 21年 1月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 12月 20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	12 人
職員数	14 人	常勤 12人, 非常勤 2人, 常勤換算	12.8人

(2)建物概要

建物形態	○併設 / 単独		新築 / 改築
建物構造	(木) 造り		
	2 階建ての	階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1日 1,650 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円)		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(150,000円 無	有りの場合 償却の有無	○有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4)利用者の概要(1月 1日現在)

利用者人数	12 名	男性	2 名	女性	10 名
要介護1	2	名	要介護2	1	名
要介護3	4	名	要介護4	5	名
要介護5	0	名	要支援2		名
年齢	平均 83 歳	最低 74 歳	最高 90 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	前田クリニック ・ 斎藤歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは西棟・東棟と2棟に分かれて立地され、それぞれの1階はディサービスで2階に1ユニット6名の定員で開設されています。6名という少人数の温かい家庭的な落ち着いた雰囲気の中で、地域密着型サービスとして、運営推進会議や介護相談員の受入、買い物、ディサービスとの交流等を社会資源のひとつとして協働を深めながら、法人全体の他にそれぞれのユニットの特性を活かした行事等を計画し、地域の人たちとの日々の関わりのなかで一步一步着実に地域に根ざし、溶け込む関係作りに積極的に取り組んでいるホームです。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題である、地域密着型サービスとして果たす役割を反映した内容を理念のなかに加えるは、職員より案をだしてもらいホーム全体として検討中であり、共用の空間づくりは安心と安全に配慮し、それぞれの空間の認識を確保しながら「見守り」を第一と考え取り組まれている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
重点項目	自己評価を全員で取り組むことにより、課題を見出し、職員の意識の向上や気づきが生まれ、サービスの質の向上に繋がっている。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
重点項目	事業所の計画やサービスの提供状況等の報告、地域包括支援センターからの情報提供等のテーマに利用者、家族代表、民生委員、福祉協力委員等のメンバーで2ヶ月に1回行なわれている。意見や質問、要望等を確認し合い、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	気軽に意見や要望等を言えるよう、来訪時の雰囲気作りや玄関には意見箱を設置し配慮している。さらに家族会を意見交換の会議と日帰り旅行等の親睦との2回に分け開催をし、出された意見、要望等に職員は共有し、反映に繋がっている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に加入し、町内会合、公園清掃、防災訓練等や盆踊りには利用者とともに参加し、中学生のボランティア活動の受入等も行い、地域との交流を図っている。前年度の地域の人を対象にした「介護教室」を今後も定期的開催の計画をし、地域の中に溶け込み双方向性の関係作りに努力をしている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所当時からの理念を唱っているが、地域密着型サービスとして地域の中でその人らしく暮らし続けることを支える理念になるよう、職員で話し合い現在検討中である。		
2	2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は見える所に掲げてあり、ユニット会議や全体会等で理解を深め共有し、理念のひとつでもある「あたたかい家族」の雰囲気を大事にしながら、日々のサービスに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内会合、公園清掃、防災訓練等や盆踊りには利用者とともに参加し、中学生のボランティア活動の受入等も行い、地域との交流を図っている。前年度の地域の人を対象にした「介護教室」を今後も定期的開催の計画をし、地域の中に溶け込み双方向性の関係作りに努力をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全員で取り組むことにより、課題を見出し、職員の意識の向上や気づきが生まれ、サービスの質の向上に繋げている。		
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の計画やサービスの提供状況等の報告、地域包括支援センターからの情報提供等のテーマに利用者、家族代表、民生委員、福祉協力委員等のメンバーで2ヶ月に1回行なわれている。意見や質問、要望等を確認し合い、サービスの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議や介護認定更新照会の他に、今年度より月1回介護相談員の受入をし、引き出しを多く捉え、気づきを共有しながら連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	常に家族等の訪問があり、自然と自宅の延長の雰囲気を持ち信頼関係を築いている。一人ひとりの身体の様子、介護の状況、日常生活の様子等は毎月発送する「月次報告書」やホームたよりにて報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	気軽に意見や要望等を言えるよう、来訪時の雰囲気作りや玄関には意見箱を設置し配慮している。さらに家族会を意見交換の会議と日帰り旅行等の親睦との2回に分け開催をし、出された意見、要望等に職員は共有し、反映に繋げている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動等で交代の場合は、新しい職員同士にならないよう、不安を与えないシフトに配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	質の確保・向上に向け法人内の研修を月1回開催している。認知症介護実践者研修受講や県や市の交換実習、訪問研修に参加をし、全体カンファレンスやミーティング等で全職員が共有できるよう報告をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し情報交換や、交換実習の事前見学等の相互訪問等を行ない、サービスの質の向上への取り組みをしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○ 馴染みながらのサービス 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの思いを大切に、過重にならないよう当たり前のことを自然にできていくように「明るい雰囲気」に心がけ、見守りしながら共に支えあえる関係作りに留意している。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向をセンター方式より把握に努め、職員は一人ひとりの表情や生活の様子の変化、気づき等を記録に残しているが、詳細における情報の共有の方法については今後の検討としている。	○	センター方式を有効的に活用し、方針(視点)方法(アセスメント等)を揃え、情報を共有し、チームで支えていくことの更なる取り組みに期待されます。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○ チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に、職員全員で月に1回のケースカンファレンスを行い、職員間での気づきや意見を出し合い、利用者の時点に添った個別計画書の作成になっている。		
16	37	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の定期的な見直しと共に、期間に捉われず、状況に応じて家族等、関係者と話し合を行なっている。、予防的見直しでは居宅との情報共有もあり、特に健康状態や運動機能(転倒防止、筋力低下防止)面に配慮し、臨機応変に見直す取り組みができています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	【小規模多機能型居宅介護のみ】 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、 事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をして いる			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受け られるように支援している	入居当初の話し合いで家族等との受診時の通院介助 や情報伝達を密にしており、月2回の往診の形をとり、 急変時も24時間体制で協力医との連携がとれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、でき だけ早い段階から本人や家族等ならびにかかり つけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有 している	看取りの指針の同意は得られているが、今後、状況変 化に応じた家族等との話し合いや同意書、確認書を含 めた方針の統一を事業所としての共有を図っていきたい と考えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言 葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをして いない	一人ひとりのプライバシーを損ねない為に、何気なく、 さり気なく側に寄り添っての声かけや対応に配慮がみ られ、「個人情報保護法」の職員への周知も徹底され ています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせ、その日のしたい事や望みの 把握をし、生活のリズムに捉えた個別性のある支援が できています。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立は利用者からの希望も聞き、できることを手伝ってもらい、職員と利用者が同じテーブルを囲み楽しみながらの食事とし支援のひとつにもなっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴(湯に入る事への負担感や抵抗感も含めて)事態を職員間で共有し、時には入浴剤を使用したり希望日や時間帯への配慮も見られ、一人ひとりに合わせた支援が行なわれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	年齢を増すに従い、場面作りも思うようにいかず、「昔とった杵柄」をうまく引き出し、お願いできそうな仕事を頼み、職員が教わったりの関わりが見られる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くへの散歩や、利用者本位の外出試みをし、お寺参りや自宅まで出かけたり、途中での地域の人からの声がけなどもあり、日々の中での外出支援が行なわれている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	一人ひとりの外出の癖や傾向を把握、共有し、声かけや行動を共にしたり、見守りの中で安全に過ごしてもらう工夫が見られる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、災害を想定した訓練を消防署立会のもと利用者と共に4回行なっている。また町内の防災訓練には職員のみ参加し、入居者の名簿提出もしており、備蓄等も各棟に非常袋を用意している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲を促す食材、あるいは旬の物を取り入れ、大まかに摂取量、水分量を把握しながら月に1回、法人内の栄養士よりアドバイスを受け、利用者の食生活を支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	両棟(東棟、西棟)それぞれの利用者の個性が垣間見られ、おやつ作りや飾りつけ、折り紙、手作り物に工夫が見られる。自宅の延長として、暮らしの場が整えられています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持参してもらい、居室には手すり変わりとしてタンスや椅子、他の物を利用してもらっている。各居室前には、それぞれの好みの暖簾があり、利用者や家族等の好きな物を(家族と一緒にの写真や人形)入れたガラスケースが設置され安心感と同時に自室の確認ができる事業所独自の配慮があり、まさに「自分の人生の主人公は自分自身」を語っているようです。		